

岩手県の土地改良



令和4年度「農村景観」写真コンクール
風景部門 優秀賞「黄金色の夜明け」

No.593 2023.12



CONTENTS

- ・令和6年度農業農村整備関係予算の概算が決定 … 2
- ・本会第18期役員が決定 … 2~3
- ・第45回全国土地改良大会福井大会が開催 … 4
- ・農を守り、地方を創る予算の確保に向けて … 5
- ・令和5年度水土里ネット職員研修会開催 … 6
- ・令和5年度換地計画実務研修会を開催 … 7
- ・令和5年度換地委員等実務研修会を開催 … 7
- ・岩手県へ農業農村整備の着実な推進を要請 … 8
- ・東北・北海道土地連絡協議会が
農水省、財務省、復興庁へ要請 … 8
- ・財務省、農林水産省へ
農業農村整備の着実な推進を要請 … 9
- ・皆川清喜氏が農政功労者表彰を受賞 … 10
- ・令和5年度いわて水土里ネット
女性の会研修会を開催 … 11
- ・全国水土里ネット女性の会研修会が開催 … 11
- ・令和5年度 女性活躍推進会議が開催 … 12
- ・令和5年度水土里ネット男女共同参画推進大会
in Kazuno が開催 … 12
- ・都道府県水土里ネット
女性理事意見交換会が開催 … 13
- ・豊沢川土地改良区 女性理事2名が選任 … 13
- ・世界かんがい施設遺産
地域活性化推進協議会が開催 … 14
- ・疏水フォーラム in 常西用水 2023 が開催 … 14
- ・農業農村工学会東北支部岩手大会が開催 … 15
- ・水土里ネットいわての概要 2023 のご案内 … 15
- ・令和5年度水土里ネット親睦ソフトボール大会 … 16
- ・農家負担金軽減支援対策事業のご案内 … 17
- ・土地改良区だより第7回水土里ネットふじさわ … 18
- ・編集後記

令和6年度農業農村整備事業関係予算の概算が決定

－当初予算は、対前年度比100.1%－

農業農村整備事業関係予算の令和6年度当初予算は4,463億円となった。

また、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策、TPP対策及び食料安全保障対策として、令和5年度補正予算において1,777億円を計上し、これらの総額は6,240億円となった。なお、詳細については、令和6年1月発行の本誌に掲載する。

本会第18期役員が決定

－令和5年度臨時総会開催－

本会は8月3日、令和5年度臨時総会を開催し、達増拓也岩手県知事の代理として菊池哲副知事、前島明成東北農政局長の代理として川村文洋農村振興部長、五日市王岩手県議会議長、今泉元伸岩手県農林水産部農村整備担当技監心得兼農村計画課総括課長にご臨席をいただいた。



【挨拶する大宮前会長】

開会にあたり大宮惇幸前会長が、「国、県の皆様、そして会員の皆様には4年間にわたり、深い御理解と力強い御指導、御高配を賜り衷心より厚く御礼と感謝を申し上げます。今後も“闘う土地改良”の旗印のもと、国が掲げる『土地改良長期計画』、岩手県が

策定した『いわて農業農村整備の展開方向の実現に向け、国や県、関係機関と連携し役職員一丸となって努力していく。』と挨拶した。



【議事を進行する佐々木理事長】

議事は、都南土地改良区の佐々木章一理事長を議長に選出し、令和4年度事業報告、収支決算について審議した結果、原案のとおり承認された。また、任期満了に伴う役員を選任が行われ、理事12名、監事3名が満場一致で選任された。これにより本会にも女性理事2名が選任された。

新役員任期は令和5年9月1日から令和9年8月31日までの4年間。

岩手県土地改良事業団体連合会 第18期役員

一任 期 令和5年9月1日から令和9年8月31日一



会長 高橋 隆
(鹿妻穴堰土地改良区)



副会長 及川 哲朗
(岩手中部土地改良区)



副会長 久保田 泰輝
(豊沢川土地改良区)



専務理事 千葉 匡
(学識経験者)



理事 小野寺 道雄
(照井土地改良区)



理事 井上 良一
(岩手山麓土地改良区)



理事 山下 正勝
(馬淵川沿岸土地改良区)



理事 渡邊 幸貫
(江刺猿ヶ石土地改良区)



理事 瀬川 智宏
(山田町土地改良区)



理事 千田 公喜
(胆沢平野土地改良区)



理事 福士 好子
(学識経験者)



理事 八木橋 美紀
(学識経験者)



総括監事 渕澤 吉和
(石鳥谷東部土地改良区)



監事 佐藤 育郎
(一関東部土地改良区)



監事 大沼 義広
(山王海土地改良区)

第45回全国土地改良大会福井大会が開催

—小野寺道雄氏が全土連会長表彰を受賞—

10月11日、第45回全国土地改良大会福井大会が『「水土里」がある。「幸福」がある。「笑顔」がある。～ふくい語る土地改良の未来～』をテーマに、福井県越前市で開催され、武村展英農林水産副大臣ほかを来賓に迎え、全国の水土里ネット関係者約4,000人が参加した。

開催にあたり、主催者の全国土地改良事業団体連合会 義経賢二副会長が、「永平寺を開山した道元禅師の“杓底一残水”の心は、土地改良の真髄であり、古来より先人の間で脈々と受け継がれてきた精神でもある。この大会を通じて土地改良の大切さを全国の皆様に共有し、発信していこうではありませんか」と二階俊博会長挨拶を代読した。



【挨拶する義経副会長】

また、来賓の武村農林水産副大臣が、「土地改良は、持続可能で強固な食糧供給基盤を確立し、食品安全保障や農村地域の安心安全な暮らしを実現するうえで大変重要な事業である。元気で豊かな農村を次世代に継承していくためにも、引き続き土地改良を着実に推進していく。土地改良事業の推進に必要な予算については、令和5年度の当初予算と前年度補正予算を合わせて6,434億円を確保することができた。現在皆様のご期待に沿うことができるよう、来年度に向けて予算を要求している。」と祝辞を述べた。

式典では、長年にわたり土地改良事業に尽力された方々の功績を讃える表彰式が行われ、本県からは小野寺道雄氏（照井土地改良区理事長）が全土連会長表彰を受賞した。



【全土連会長表彰を受賞した小野寺氏】
(左から3番目)

大会翌日の12日には、本会役員らが『ゆりの里公園』及び『九頭竜川下流鳴鹿中央管理所』を視察した。

『ゆりの里公園』は、平成16年に農村振興総合整備事業で整備した公園で、園内には、国営かんがい排水事業で設置された調圧水槽や、地域農業の発展を目指して整備された農産物直売所や農家レストラン等があり、ゆりを始めとした様々な花を楽しめる交流の場となっている。

『九頭竜川下流鳴鹿中央管理所』は、老朽化や水質悪化等の問題を抱えた旧来の開水路をパイプライン化することで、水質の保全と維持管理の負担軽減を図るとともに、新たな受益地域を取り込み農業用水の再編を行うことで地域全体の農業用水の安定供給を図っている。



【説明を聞く参加者ゆりの里公園にて】
左:ゆりの里公園
右:九頭竜川下流鳴鹿中央管理所

農を守り、地方を創る予算の確保に向けて

－『農業農村整備の集い』が開催－

11月7日、全国土地改良事業団体連合会は、令和6年度当初予算の確保と各種施策の着実な実施に向けて『農業農村整備の集い』を開催し、282名の国会議員臨席のもと、全国から960名が集結した。



【祝辞を述べる進藤会長会議顧問】

来賓祝辞では、進藤金日子都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問が、「現在、食料・農業・農村基本法の改正に向けて議論が進められているが、それを踏まえながら、どのように農業農村を各地域の特性に合わせて展望を開いていくかは、土地改良が一丁目一番地だと思っている。そこに向けて皆さんが意思統一をし、予算の確保をはじめ、地域農業の発展、男女行動参画の推進など、いろいろな面で皆様がリーダーシップを発揮して各地域の農業農村を牽引していただきたい。」と述べた。

次に、『土地改良事業の計画的な推進のため、必要な予算を安定的に確保すること』など全10項目の要請案文が全会一致で採択された。



【情勢報告する宮崎会長会議顧問】

続いて、宮崎雅夫都道府県土地改良事業団体連合会会長会議顧問が、閣議決定された総合経済対策、令和6年度当初予算の概算要求、食料・農業・農村基本法の見直し、男女共同参画についての情勢報告を行った。

新たな取組の報告では、全国水土里ネット女性の会の根本由紀子会長が9月に開催された、「令和5年度水土里ネット男女共同参画推進大会 in Kazuno」について報告を行った。



【挨拶する二階全土連会長】

続いて、主催者挨拶として二階俊博全国土地改良事業団体連合会会長が、「農家の方々に期待を持って働いていただける環境を作るために、十分な土地改良予算の確保に向け一致団結して頑張っていきましょう。また、男女共同参画は土地改良団体の強化のために必要不可欠な課題であり、しっかりと取り組んでいかななくてはならない。」と述べた。



【ガンバロウ三唱をする代表者】

令和5年度水土里ネット職員研修会開催

－土地改良区の組織強化に向けて－

本会は8月24日、25日の2日間、花巻温泉において、令和5年度水土里ネット職員研修会を開催し、土地改良区職員41名が受講した。

開会に当たり、水土里ネットいわての千葉匡 専務理事が「本研修会では、近年の農業農村整備に係る事項について5人の講師の方々からご講演がある。土地改良区職員の皆様には、土地改良区の運営基盤強化に向けてスキルを高めるということを意識して臨んでほしい。」と挨拶した。



【挨拶する千葉専務理事】

初日の研修では、岩手県農林水産部農村計画課の黒田裕一 企画調査課長が『食料・農業・農村基本法の見直し～農業農村整備の見直し方向～』と題して、約20年ぶりに見直される食料・農業・農村基本法の背景及び見直しに関するこれまでの検証や基本法検証部会の中間とりまとめ、新たな展開方向について説明した。

続いて、弁護士法人熊谷・岩田法律事務所の小林洋介弁護士が『所有者不明土地の解消に向けた民事基本法制の見直し』と題して、令和5年4月に施行となった民法等の一部改正法や、相続で取得した不要な土地を国が引き取る相続土地国庫帰属法の

概要について説明した。

次に、全国土地改良事業団体連合会中央換地センターの小笠原善友所長が、『最適土地利用対策について』と題して、最適土地利用対策の事業内容や、各地域の取組事例について説明した。

翌日の研修では、『小田島組での女性活躍の取り組み』と題して、10代、20代の女性社員が多く、女性活躍推進に先進的に取り組んでいる株式会社小田島組のブランディング部 小志戸前麻里係長が、女性社員が働きやすい環境作りのために小田島組で行っている様々な取組とその結果について紹介した。



【講演をする小志戸前係長】

最後に、本会の菅野章参与兼換地部長が『地域計画について（人・農地プランの法定化について）』と題して、令和5年4月の農業経営基盤強化促進法の改正により人・農地プランから法定化された地域計画の概要や、策定における土地改良区の役割について説明した。

令和5年度換地計画実務研修会を開催

－初任換地技術者向け研修会を開催－

7月21日、本会は本会会議室において「令和5年度換地計画実務研修会」を開催し、換地業務に携わる県、市町村、土地改良区の職員約50名が受講した。

研修では、本会から「食料・農業・農村基本法見直しの方向性」、「民法や財産管理に係る関連法改正の説明」、「地域計画策定」について説明した。



【渡部表示登記専門官による講義】

盛岡地方法務局登記部門 渡部誠表示登記専門官からは現地確認不能地発生

理由や調査方法、換地における取り扱い、法務局との打ち合わせの重要性などを講義いただいた。

岩手県農林水産部農村計画課 平賀譲主任主査からは、計画調査の進め方と「地元要望」から「事業採択・着工」に至るまでの流れについて、また、農村建設課 村上卓也主任主査からは、調査計画段階からの注意点や換地のよくある質問について、それぞれ講義いただいた。



【研修会の様子】

令和5年度換地委員等実務研修会を開催

－換地委員の役割について理解を深める－

8月24日、25日の2日間、本会はつなぎ温泉「ホテル紫苑」において、「令和5年度換地委員等実務研修会」を開催し、ほ場整備実施地区の換地委員や計画地区の推進委員、土地改良区の担当者など約80名が受講した。



【説明する中村技術主幹兼農地整備担当課長】

「いわて農業農村整備の展開方向（2023～2026）について」と題して、岩手県農林水産部農村建設課の中村 愛彦 技術主幹兼農地整備担当課長から、農業を取

り巻く背景と本県の農業農村整備の展開方向について講義いただいた。

「先進地事例発表」では、「子や孫に引き継ぐ集落づくり（農業・6次産業化の取り組み）」と題して、株式会社 上小田代 伊藤 周治 代表取締役による講演が行われ、集落づくりに取り組み始めたきっかけから法人化までの流れ、営農や6次産業化の現状とほ場整備事業の導入などこれまでの様々な取り組み事例を紹介いただいた。



【受講の様子】

岩手県へ農業農村整備の着実な推進を要請

本会は5月29日、前大宮惇幸会長、前小野寺道雄副会長、及川哲朗副会長及び千葉専務理事が、岩手県農林水産部藤代克彦 部長に対し、「農業農村整備の着実な推進に関する要請」を行い、藤代部長から次のとおりコメントを頂いた。



〔左から、千葉専務理事、小野寺前副会長、藤代部長、大宮前会長、及川副会長〕

○藤代農林水産部長のコメント

・水田の大区画化・汎用化にしっかりと取り組んでいく必要があるため、完了地区を出しつつ新規採択が計画的に進むよう今後も予算の確保に努めていく。

・県の電気料金への支援については、国のコロナ交付金を活用しているが、10月以降も対策が継続できるよう、国に現状を訴えながらお願いしていく。

・各土地改良区で取り組んでいただいている省エネ対策に感謝。各種事業を活用しながら地域における省エネ化・省力化の取組を支援していく。

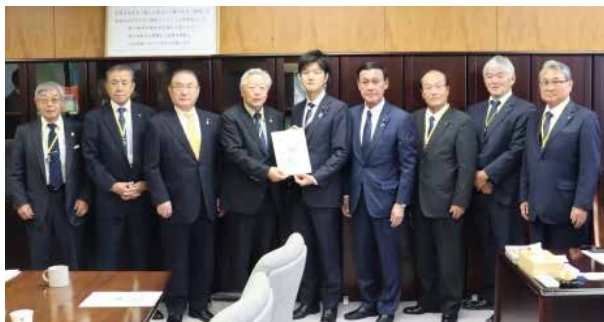
・水田の畑地化について、水利施設を有効に活用していくためには、虫食い状態での畑地化などが課題。ブロックローテーションなども意識しながら地域内で話し合いを進め、地域農業を元気にしていきたいと考えている。

・また、地域計画の策定に向けた話し合いを通じて、畑地化含めた水田利用をしっかりと考え取り組んでいくので、ご協力を願う。

・最近気象変化が著しく、地震も頻発しているため、災害に対して十分気を付けていただきたい。

東北・北海道土地連絡協議会が農水省、財務省、復興庁へ要請 — 農業農村整備予算の確保を要請 —

東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会は、11月8日に農林水産省、財務省及び復興庁に対し、令和5年度補正予算及び令和6年度当初予算の確保等について要請を行った。



【鈴木農林水産副大臣へ要請書を手交】

農林水産省では、鈴木憲和農林水産副大臣から「気候変動の影響が年々厳しくなっている。強い農業生産基盤のた

めに、責任をもって体制作りに励む。」とコメントを頂いた。

財務省では、漆畑有浩財務省主計官から「厳しい財政状況ではあるが、今回の要請を踏まえ、しっかりと農林水産省と議論を進めていきたい。」とコメントを頂いた。

復興庁では、高木宏壽復興副大臣から「震災発生から12年8か月が経ち、インフラについては岩手県と宮城県はほぼ完了できた。一方、福島県は営農再開が5割を切っており、復興事業を進めているところ。復興事業に支障を来さないよう、しっかりと予算確保に取り組んでいく。」とコメントを頂いた。

財務省、農林水産省へ農業農村整備の着実な推進を要請

— 安定的・計画的な事業実施や防災・減災に向け来年度予算の確保を —

10月6日、本会の高橋隆会長、及川哲朗副会長、久保田泰輝副会長が、財務省及び農林水産省に対し、令和6年度当初予算及び令和5年度補正予算の確保、電気料金高騰対策及び施設管理の省力化・高度化等土地改良区の運営基盤強化並びに災害復旧支援などの「農業農村整備の着実な推進に関する要請」を行った。

財務省では、鈴木俊一財務大臣に面会し、要請を行った。鈴木大臣からは、「土地改良事業は効果が顕著に表れる事業。ほ場整備の実施は、ICTを活用したスマート農業の導入につながり、担い手不足を補うことにつながる。農村が置かれている厳しい状況に対応するためにも農業基盤整備事業は重要。着実に進めていってほしい。」とのコメントを頂いた。



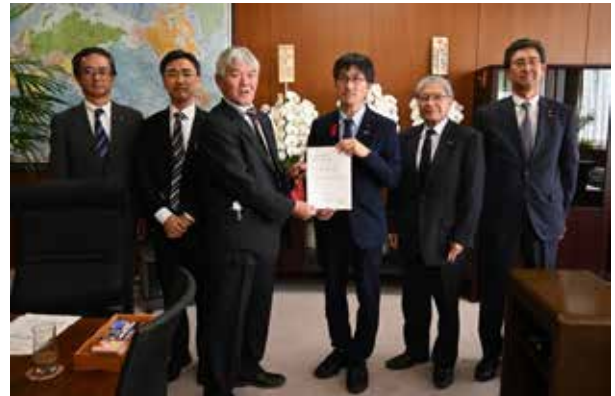
【鈴木財務大臣への要請】

左から、千葉専務理事、及川副会長、鈴木財務大臣、高橋会長、久保田副会長、県農村計画課 黒田企画調査課長

農林水産省では、舞立昇治農林水産大臣政務官を始め、長井農村振興局長及び緒方整備部長にそれぞれ面会し、要請を行った。

舞立農林水産大臣政務官からは、「農業農村整備は生産性向上の観点から本当に重要である。農業農村整備事業の予算について、公共だけでなく非公共もしっかりと確保していきたいと思っている。岩手県は

デジタル化の導入にもいろいろ取り組んでいるが、国としてもスマート農林水産業の普及促進は喫緊の課題であり、重点的に取り組んでいく。農林水産分野は、特に地方の発展に関係する分野なので、しっかりと取り組んでいきたい。」とのコメントを頂いた。



【舞立農林水産大臣政務官への要請】

左から、千葉専務理事、黒田企画調査課長、高橋会長、舞立農林水産大臣政務官、及川副会長、久保田副会長

長井農村振興局長からは、「事業効果についてPRしていただき、非常にありがたい。基盤整備をすると生産性のアップに加え、地域に人も戻ってくる。工事単価が上がっている状況だが、事業進捗に支障をきたすことのないよう、まずは来年度の全体予算枠をしっかりと確保していきたい。」とのお話があった。

また、緒方整備部長からは、「いただいた要望を踏まえNN全体の総額を確保していきたい。財務省への説明において、事業の効果事例が必要。引き続き提供してほしい。また、土地改良事業においては、昨今の物価上昇が直接個々の農家経営に影響を与えている、ということを経済省に説明しているところ。引き続き、予算の確保について頑張っていく。」とのお話があった。

皆川清喜氏が農政功労者表彰を受賞

—令和5年度農業委員会大会において—

11月9日、都南文化会館（キャラホール）において、一般社団法人岩手県農業会議（杉原永康会長）主催の『令和5年度岩手県農業委員会大会』が開催され、皆川清喜内之目土地改良区前理事長が農政功労者表彰を受賞した。

この表彰は、永年にわたり農林業関係機関・団体の役員等として、地域農業・農村の振興に多大な貢献をされた方を表彰するもので、皆川氏は、土地改良区の健全な経営と地域営農の発展への尽力等の功績が認められ、栄誉に浴された。

会場では、県内各地から参集した農業委員や関係者約700名が受賞者へ盛大な拍手が送られていた。



〔受賞した皆川前理事長〕

○受賞理由

皆川氏は理事長就任以来、他の理事と共に率先して組合員との直接対話を行い、丁寧な説明に努め、理解を得ることで、賦課金徴収率100%を継続し、健全な土地改良区運営に尽力した。

複式簿記会計への移行に際し、役職員を研修会などに参加させ、研鑽を積ませることで円滑な移行を果たした。また、会計システムを導入することで、事務処理の効率化を行い、土地改良区運営の透明性を確保すると共に、事務局体制の強化を実現した。

平成24年の内之目農地・水・環境保全組合の結成に尽力し、平成29年に同組合の組合長に就任すると、農業従事者以外の地域住民へ草刈りや水路の泥上などへの参加を促し、共同活動を通じて、担い手農家の負担軽減と農村資源の保全を図るとともに、地域のまとまりの醸成に貢献した。



〔賞状を受取る千葉逸郎第一理事
（皆川前理事長代理）〕

令和5年度「いわて水土里ネット女性の会研修会」を開催

9月26日(火)、いわて水土里ネット女性の会は、本会3階会議室において、令和5年度「いわて水土里ネット女性の会研修会」を開催し、会員30名が参加した。



【挨拶する菅原みゆき会長】

本研修会は、男女共同参画の先進的取組事例等を学ぶことにより、会員の認識をより深め資質向上を図るとともに、会員同士の横の交流を目的に行われた。

開会にあたり、菅原みゆき会長（照井土地改良区事務局長）が「近年、男女共同参画や女性活躍推進の話題が多く取り上げられており、全国でも取組が加速化してきている。私たちもより女性の会を拡充し、チャレンジ力や強い意志を持って、今できることから取り組んでいけた

らと思う。」と挨拶した。

研修では、office-asaji（オフィスアサジ）代表 佐々木麻路さんが『目から鱗のコミュニケーション能力アップ』と題し、ワークを通してコミュニケーション能力アップにつながる講義を行った。

次に、宮崎県大島堰土地改良区 奥村千扶子理事長が、『土地改良区における女性活躍について』と題して、「日本のひなた水土里ネット女子会」の活動状況等について講義した。

講義後は、「女性の会の活動でやりたいこと、やってほしい研修等について」をテーマに、5つのグループに分かれ意見交換を行った。



【意見交換会の様子】

全国水土里ネット女性の会研修会が開催

11月8日(水)、全国水土里ネット女性の会は、東京都千代田区 ビジョンセンター永田町において、「全国水土里ネット女性の会研修会」を開催し、全国の水土里ネット女性の会関係者115名が参加した。

研修では、『アンコンシャスバイアス』に関する講義とドキュメンタリー映画監督による『男女共同参画における「伝えること」の大切さ』の講義が行われた。講義後は、参加者同士でグループワークが行われ、アンコンシャスバイアスに関する課題と課題解決に向けた具体策について話し合

われた。

※アンコンシャスバイアス：無意識の偏見や思い込みから偏ったモノの見方をしてしまうこと。



【グループワークの様子】

令和5年度 女性活躍推進会議が開催

8月21日、22日の2日間、東北・北海道土地改良事業団体連合会連絡協議会は青森県青森市『ホテル青森』において、令和5年度 女性活躍推進会議を開催し、東北の水土里ネット関係者23名が出席した。



【会議の様子】

初日の会議では、本会議の開催経緯について説明された後、各道県水土里ネット女性の会の活動状況及び今年度始動となる本会議の今後の方向性と取組につい

て意見交換が行われた。

2日目の現地視察では、青森県南津軽郡田舎館村の「田んぼアート」を見学し、青森県黒石市大川原地区の大川原棚田では、大川原棚田保全の高まりの経緯や、課題と対策についての説明を受けた。最後に、大川原地区における女性参画の推進に向けての活動、女性参画によって得られる効果について意見交換を行った。



【大川原棚田の前で集合写真】

令和5年度 水土里ネット男女共同参画推進大会in Kazunoが開催

9月27日、28日の2日間、全国水土里ネット女性の会は秋田県鹿角市『ホテル鹿角』において、令和5年度「水土里ネット男女共同参画推進大会 in Kazuno」を開催し、全国の水土里ネット関係者約220名が参加した。



【挨拶する根本会長】

初日の大会式典では、開会にあたり、主催者の全国水土里ネット女性の会 根本由紀子会長が「本日水土里ネットの皆様が一堂に会し、男女共同参画について研鑽を積むことは大変意義深いことであり、それぞれの地域で男女共同参画がなお一層推進され、皆様方の今後の活動の

一助となり、土地改良区の創造に向けた新たな一歩となることを願っている。」と挨拶した。

その後、「土地改良区の未来を拓く多様な人材の活躍に向けて」と題した基調講演、「男女共同参画社会を実現するためには」をテーマとしたパネルディスカッションが行われた。パネルディスカッションでは、パネラーとして本県 胆沢平野土地改良区 千田公喜理事長が参加した。

2日目は現地研修として、秋田県内の文化施設や道の駅を見学した。



【パネラーとして意見する千田理事長】

都道府県水土里ネット女性理事意見交換会が開催

11月15日、16日の2日間、全国水土里ネット及び水土里ネットなのは、長野県『メトロポリタン長野』において、都道府県水土里ネット女性理事意見交換会を開催し、全国から22名が参加した。



【意見交換会の様子】

本交歓会の趣旨は、昨今土地改良団体における女性理事登用が進むなか、各団体の女性の理事に農業・農村に対する意識をより一層深めていただくとともに、理事同士のネットワークを構築すること

により理事の業務を行う上での一助となるよう開催されたもの。

意見交換会では、「所属や経験を踏まえ、土地改良業界はどのように見えたか。土地改良団体の理事になりどう思ったか。」や、「土地改良を変えていくにはどうしたらよいか」等について意見交換した。

2日目は、県営中山間総合整備事業 信州高山地区及び合同会社岡木農園を視察した。



【視察先で説明を聞く参加者】

豊沢川土地改良区 女性理事2名が選任

－ 県内2例目の女性理事登用 －

豊沢川土地改良区では、任期満了に伴う役員改選が行われ、員外理事として阿部美智子氏、川村 姫子氏の2名が選任された。女性理事の登用は、胆沢平野土地改良区に続いて県内2例目となる。

任期は、令和5年11月12日から令和9年11月11日までの4年間。

各土地改良区におかれましても『第5次男女共同参画基本計画』（令和2年12月）及び『土地改良長期計画』（令和3年～令和7年）にて2025年度を期限に定められた女性理事登用に関する成果目標の達成に向けて、引き続き女性理事登用の推進をお願いいたします。

世界かんがい施設遺産地域活性化推進協議会が開催

10月10日（火）、世界かんがい施設遺産地域活性化推進協議会は、福井県織協ビルにおいて、世界かんがい施設遺産地域活性化推進協議会（第2回総会）をWebと併用で開催し、全国から142名が参加した。

議事では、本協議会の加入報告、役員を選出、活動計画、世界かんがい施設遺産カードの活用について協議された。その後、株式会社博報堂の立谷光太郎顧問によるセミナーが行われ、「地域の遺産を地域の価値向上の資産に」と題し、価値を造る情報発信についてや、世界かんがい施設遺産の情報発信の価値を上げていくためのポイント等について講義された。本セミナーでは、価値を造る情報発信とは、発信された情報が受信者にとって単なる「知識や記憶」にとどまるのではなく、「興味を持ってその後何らかの行動を起こす値打ちがある（有用性のある）」と評価されるものであ

ると説明された。また、価値を高める情報発信のポイントとして、『かんがい施設遺産の価値を「5W1H」で再整備』や『SNSを中心としたメディアの活用』が挙げられた。

最後に本協議会会員からの発表があり、それぞれの地区の概要や世界かんがい施設遺産登録後の活動状況について説明された。



【講演する立谷顧問】

疏水フォーラムin 常西用水2023が開催

－疏水の今そして未来へ－

10月30日、31日の2日間、水土里ネット常西用水、全国水土里ネット、疏水ネットワークにより富山県富山市『富山国際会議場』において、疏水フォーラムin 常西用水2023が開催された。

本フォーラムは、多面的機能を持つ疏水を広く国民に周知し、将来に引き継いでいくことができるよう、情報交換、情報発信等を行うことを目的として開催されているもの。

初日のフォーラムでは、「疏水を取りまく情勢について」と題した基調講演、「都市化が進む地域における農業用水の維持管理について」と題した講演、「常西用水の維持管理活動について」と題した活動

報告が行われた。その後、「都市地域の疏水の保全管理を考える」をテーマにパネルディスカッションが行われ、パネリストとして本会 高橋隆会長が鹿妻穴堰土地改良区理事長として参加した。



【パネリストとして発言する高橋理事長】

農業農村工学会東北支部岩手大会が開催

－いわて農業の礎を学び、今を考え、豊かな未来を拓く－

11月9日、10日の2日間、農業農村工学会東北支部は、岩手県と秋田県立大学と共催し、岩手大学から後援を受けて令和5年度農業農村工学会東北支部総会及び第64回研究発表会、第54回支部研修会並びに第43回地方講習会を開催した。

総会では、支部賞受賞式が行われ、本会の農村整備第二課金平修祐企画支援専門員が研鑽賞を受賞した。



【表彰を受ける金平企画支援専門員】

研究発表会では、国や県、大学や建設会社、設計会社などの代表者が、業務内で生じた課題に対する解決策の事例や研

究成果を報告した。

本会からはドローン技術に関して、菊池事業調整監が「ドローンと水土里情報システムの融合による農業農村のデジタルツイン構築」と題して発表を行ったほか、農村整備第一課の藤井課長が「ドローン等新技術を活用した農業水利施設の維持管理」と題して発表を行った。加えて、農村整備第二課の工藤課長が「人口減少社会におけるこれからの農業集落排水施設について」と題して、農村整備第二課の金平企画支援専門員が、「東北地方のかんがい水の水質推定とコンクリート構造物の溶脱への影響」と題してそれぞれ発表を行った。また、照井土地改良区工務課の佐藤平技師と中村空耶技師が「ICTを活用した施設の監視事例について」と題して発表を行い、先進的な技術や様々な課題解決の事例の共有を図った。

水土里ネットいわての概要2023のご案内

本会では、本会の業務内容・組織について綴った「水土里ネットいわての概要」を作成しています。

今年度の「水土里ネットいわての概要2023」について、本会ホームページに記載されております。業務の参考にご覧ください。

(本会ホームページ)

<https://www.iwatochi.com>



水土里ネットいわての概要 2023 表紙

令和5年度水土里ネット親睦ソフトボール大会

— 県南農村整備室チームが優勝！ —

本会は、10月3日、「令和5年度水土里ネット親睦ソフトボール大会」を花巻市「石鳥谷ふれあい運動公園」で開催し、県内の土地改良区、県の現地機関など12チーム206名が熱戦を繰り広げた。

開会式で本会の高橋隆会長は「4年ぶりに盛大に開催することを心から感謝申し上げる。この秋空の下、健康づくりと親睦を深めるとともに、選手と応援団が一丸となって優勝を目指してこの大会を盛り上げていただきたい。」と挨拶。その後、高橋会長の始球式で試合が開始された。

全11試合が行われ、ホームランが数多く飛び出す中、好プレーも続出。選手の一投一打に大きな拍手と声援が送られた。



【試合の様子】

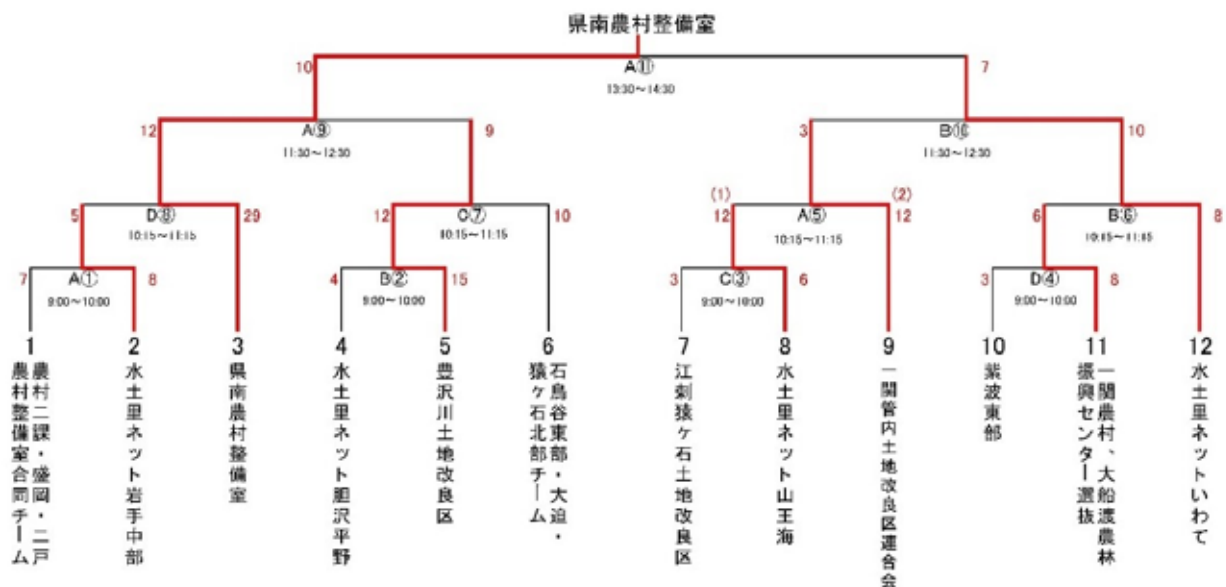


【優勝した県南農村整備室チーム】

決勝は、県南農村整備室と水土里ネットいわての対戦となった。白熱した試合展開だったが鉄壁の守備と強力な打撃力を有する県南農村整備室チームが相手をねじ伏せ、前回に引き続き優勝カップを手にした。

試合の結果は次のとおり。

令和5年度 水土里ネット親睦ソフトボール大会トーナメント表



農家負担金軽減支援対策事業のご案内

ー 土地改良事業の受益者負担金の利子負担を軽減ー

1. 水田・畑作経営所得安定対策等支援事業【無利子貸付】

土地改良法に基づく土地改良事業等の実施地区において、要件を満たすことが確実と見込まれる地区に対して、経営所得安定対策等支援計画に従って、受益者負担金の5/6に相当する額を限度に無利子貸付

対象となる事業

土地改良法に基づく事業であって、①②のいずれにも該当しない事業

- ①担い手育成農地集積事業（公庫の無利子貸付）の対象事業
- ②水利施設等保全高度化事業実施要綱に基づく水利施設整備事業のうち農地集積促進型

採択要件（1～3のいずれかに該当）

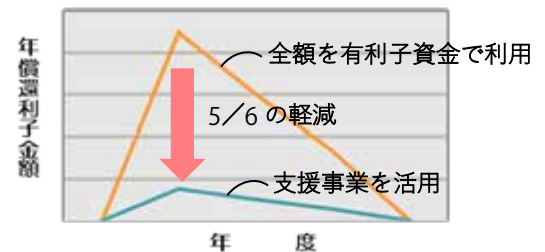
1. 支援計画で定める目標年度までに、担い手農地利用集積率が一定の割合で増加すること。

採 択 時	目 標
80%未満	10ポイント増加*
80～90%未満	10ポイント増加
80～90%未満	95%以上
80～90%未満	シェア増加
100%	維持

※目標集積率60%未満は採択しない。

2. 支援計画で定める目標年度までに、高収益作物[※]の生産額がおおむね20%以上増加すること。
※ 高収益作物とは、主食用米と比べて面積当たりの収益性が高い作物（野菜、花き・花木、果樹など）をいう。
3. 輸出事業計画の認定規程に基づき認定された輸出事業計画との連携が図られること。

支払利子の比較（イメージ）



借入額が多ければ利子が大幅に軽減！

例えば、54百万円を6年間（合計3億24百万円）0.65%で借りた場合、約18百万円の利子が軽減される。

償還期限・償還方法

- ・25年以内（据置期間10年以内を含む）
- ・均等年賦償還

2. 農地有効利用推進支援事業【利子助成】

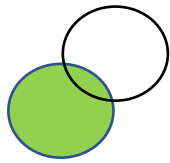
農地耕作条件改善事業を実施し、担い手への農地利用集積がおおむね8割以上となる地区に対して

- (1) 受益者負担金の償還利子相当額の5/6を限度として助成〔事業費助成型〕
- (2) 農地中間管理機構が農地の出し手（所有者）に対する賃料の一括前払に必要な借入資金に係る償還利子相当額を助成〔一括前払助成型〕

※ 農地利用集積が既に8割を超えている地区は対象としない。

なお、災害時に利用できる災害被災地域土地改良負担金償還助成事業もあります。

お問い合わせは、**本会総務管理部管理指導課**（TEL 019-631-3202）まで。



土地改良区だより

第7回 水土里ネットふじさわ (藤沢土地改良区)

県内位置図



【千田博理事長(前列右から2番目)と職員】

本土地改良区は、平成16年4月に、組織運営体制の充実、合理化による経費節減のため藤沢町土地改良区と国営藤沢土地改良区が新設合併して誕生しました。

本土地改良区の受益地は岩手県の南部に位置する一関市北上山系に連なる西斜面の丘陵地帯にあり、典型的な中山間農村地域です。受益面積は、国営事業地区、県営事業地区、

団体営事業地区を合わせて953haです。気候は比較的温暖であり年間降水量は少なく、町内を流れる河川沿いの平坦地に水田、丘陵地の南斜面に畑地が拓かれています。何れも狭小で分散しており、営農条件には決して恵まれていませんでした。このため、農業基盤の確立に向けて、圃場整備事業や畑地整備の国営農地開発事業の導入を推進し、水資源の確保と大規模な圃場の整備を進めました。水利用状況は、北上川、黄海川、相川の相川ダム、二股川の千松調整池全域に分散するため池を水源とし、頭首工、揚水機場等により取水、配水をしています。

現在は、県営ほ場整備事業が3地区で行われており、農業用水の安定供給と農業生産性の向上に取り組んでおります。農業農村整備事業を契機とした高収益作物の導入や農地の集積・集約化スマート農業の導入などの取組とともに、ドローンや水土里情報システムを活用した、農業水利施設の管理調査、検証を実施するなど、新技術を活用した施設管理の省力化・高度化にも取り組んでいるところです。

今後も役職員一丸となり、様々な事業に取り組んで参ります。



【相川ダム】



【千松ダム】

水土里ネットふじさわ(藤沢土地改良区)

【理事長】 千田 博

【所在地】 〒029-3406 岩手県一関市藤沢町西口字玉川 205 番地 3

【連絡先】 TEL : 0191-61-1058 FAX : 0191-61-1045

【受益面積】 953ha 【組合員】 1,218名 【理事】 10名 【監事】 3名 【職員】 6名

編集後記

暑かった夏が過ぎ、あっという間に冷え込む季節となり、今年最後の「岩手県の土地改良」をお届けとなりました。

「土地改良区だより」にご協力いただいた藤沢土地改良区様、大変ありがとうございました。

今号にも掲載しております、「水土里ネット親睦ソフトボール大会」は4年ぶりの開催となり、大いに盛り上がりました！ご参加頂いた各団体の皆様、ありがとうございました。

人と人との交流や、外出する機会が増えてきましたが、風邪などお体に気をつけてお過ごしください。

次号は1月発行予定です。皆さん良い年末をお迎えください。

(編集幹事)



発行所 **岩手県土地改良事業団体連合会**

〒020-0866 盛岡市本宮二丁目10番1号

TEL 019-631-3200

FAX 019-631-3260

<https://www.iwatochi.com>

編集発行人 千葉 匡